

高所ガラス清掃で転落リスクゼロ

米エトレ社の新器具導入

アドバンス北陸サービス（金沢市長田、杉本健一社長）と北国クリーンサービス（同市福増町、藤井万博社長）の2社はこのほど、高所でのガラス清掃作業時の転落発生リスクをゼロにするため、米エトレ社の新器具「アクアクリンシステム」を導入した。ブラシのポールが長いため、はしごや脚立、高所作業車を使用する必要がなく、地面に居ながら安全・安心にふき取り作業を行うことが可能となった。県内での導入は両社が初めて。

アドバンス北陸と

北国クリーンの2社

両社がそれぞれ1台ずつ導入したアクアクリンシステムは、長さを自由に調節できる3〜20級のブラシポールをそろえ、建物の高さに合わせて地面から簡単に高所のガラスをふき取ることが可能だ。高さ3〜4層での転落事故が労働災害

の中でも多いとされ、これらの危険を完全に取り除くことができる。ローリングタワーや高所作業車をレンタルしていた費用も削減できる。厚生労働省がまとめた昨年の労働災害発生状況を見ても、死亡、死傷、重大災害が増加傾向にあり、減少に歯止めがかからないのが現状だ。建設業に限った労働死亡事故では、足場などからの墜落・転落が例年40%前後と高い割合を占めているという。アドバンス北陸サービスの杉本社長は「このシステムで作業を行うことで、軽落災害がゼロになる」と話す。

同システムは、安全性を向上させるだけでなく、作業時間の短縮、環境面でも優れた特徴を持っている。ろ過フィルター装置を用いることで、普通の水道水を洗浄力が強力な純水に換えて、ガラスが乾いた後のふき取る手間を省くことができる。



アクアクリンシステムを使った清掃作業。簡単に3階のガラスをふき取れる



水道水を純水に換えるろ過フィルター装置

一般的なガラス清掃では、カルキなどの不純物が含まれている水道水を使用。洗浄後に水分が蒸発すると、水滴の形で白く残留するため、ふき上げ、水切りが必要となっていた。同システムの専用フィルターを使うと、水道水に混入している塩素やイオン性無機化合物などを除去し、純水に変換する。

純水は、水道水に比べ分子構造が微小となるため、溶解能力が高まり、ガラス表面に付着している汚れの隙間にも浸透。フィルターを通して、不純物物質濃度の数値であるppmが平均10以下となる。こ

洗剤不要で環境負荷低減

れにより、洗剤を使う必要がなくなり、自然環境への負荷も低減される。アーチ状やガラス面を多用した店舗、ショールームのほか、太陽光パネルや車両クリーニングにも効果を発揮するという。

北国クリーンサービスの藤井社長は「これまで3工程で実施していた清掃作業がワンステップでできる」と、このシステムの利点を実感。杉本社長は「お客さまへ迷惑をかけることなく、作業従事者が安全にガラス清掃を行える環境が整った」と話しており、今後、墜落事故災害の減少を後押ししていく構えだ。